

<多様な担い手（棚田オーナー等）の確保に取り組む事例>

## ○日本の棚田百選「海に見える丹後町袖志の棚田」を再生

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	京都府京丹後市袖志 <small>きょうたんごしそでし</small>			
協定面積 8.0ha	田 (100%)	畑	草地	採草放牧地
	水稲			
交付金額 157万円	個人配分			25%
	共同取組活動 (75%)	農道・水路整備		55%
		電気柵設置・草刈		13%
		役員報酬		4%
	農地の点検管理		3%	
協定参加者	農業者 46人			開始：平成12年度

### 2. 取組に至る経緯

丹後町袖志の棚田は平成11年に「日本の棚田百選」に選ばれた海と山との美しい風景に囲まれた棚田である。しかし、近年は過疎化・高齢化の進展から農業後継者が減少するとともに、休耕地が増加し、以前の美しい風景が失われつつある。また、猪や猿などの有害鳥獣による農作物被害が増加し、防護柵や電気柵を設置しないと水稲栽培ができない状況になっている。

このような中、棚田百選に選ばれている袖志の棚田を維持して行きたいという集落の強い思いと、中山間地域等直接支払制度を活用した有害鳥獣の防護柵設置等の共同取組活動により、農業生産活動が継続できている状況である。

### 3. 取組の内容

調整水田となっていた棚田において、平成22年から中山間地域等直接支払制度を活用し、『袖志の棚田を再生し、その美しい風景を次世代の子ども達に残していきたい』、そんな思いを持った人々が手を組んだ「袖志の棚田再生プロジェクト」が始まっている。

このプロジェクトは、調整水田となっていた棚田に、もち米を栽培するというもので、田植え・稲刈り・収穫祭というプロセスを通して、地域住民と手を組んだ地元企業（宇川温泉よし野の里）・大学生・緑のふるさと協力隊が一体となって、棚田を見事に復活させることができた。



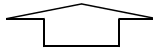
海に見える丹後町袖志の棚田



棚田プロジェクトによる田植え

### [集落の将来像]

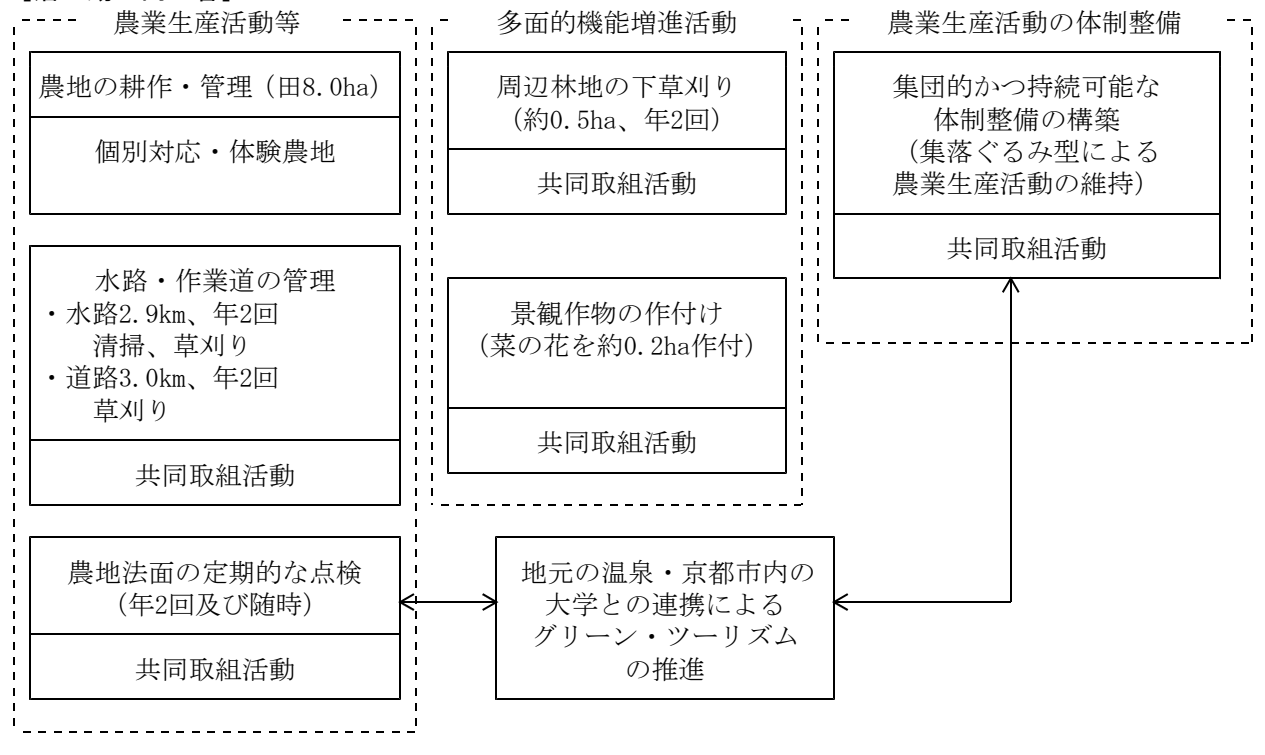
- 日本の棚田百選に選ばれている棚田と世界ジオパーク（科学的に見て特別に重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を複数含む自然公園）に認定された山陰海岸の地形を活かして、グリーンツーリズムを活用した棚田を再生する事業を積極的に行い、持続可能な農村の生活を守っていく。



### [将来像を実現するための活動目標]

- 地域の実情に即した持続的な農業生産活動等の体制整備を行い、日本の棚田百選に選ばれている丹後町袖志の棚田を継続して維持管理していく。また、有害鳥獣の対策（防護柵の拡大・維持管理）を積極的に行っていく。

### [活動内容]



## 4. 今後の課題等

第3期対策では、第1期対策から第2期対策で設置した協定農地周辺のバッファゾーンと有害鳥獣防護柵・電気柵の維持管理を行っていくとともに、未整備農道の舗装等を行い、農機具や軽トラックが農地まで入れるようにすることで、農作業の軽減や耕作放棄地の解消に取り組んでいく。

また、平成22年に山陰海岸が世界ジオパークの認定を受けたことから、多くの方が袖志の棚田を訪れ、すばらしい風景を見ていただくよう、農業体験を通じたグリーンツーリズムを今後も積極的に行い、持続的な棚田の維持管理体制を構築していきたい。

### [第2期対策の主な成果]

- 有害鳥獣防護柵及び電気柵の設置(2,850m)「効果：鳥獣による農作物の被害が減少した」
- 農道舗装(340m)「効果：農作業の効率化」